

施設カルテ

施設番号 99047 基準日 2016/04/01 出力日 2017/03/21

施設基本情報

施設名	消費生活センター		
所在地(住所)	北区大供一丁目1-1		
所管局区室課	市民生活局生活安全課		
FM大分類	行政事務系施設	FM中分類	その他事務所
財産中分類	公用財産	地区	北区本庁管轄区域
財産小分類	本庁舎	財産細分類	本庁舎
中学校区	桑田中学校	小学校区	鹿田小学校
複合化状況	有	防災上必要な施設	—
管理運営	直営	延床面積	0.00 m ²
目的外使用	—	建築面積	0.00 m ²
土地所有状況	—	敷地面積	— m ²

施設概要 本庁舎2階の一部

設置目的 —

設置根拠 岡山市消費生活センターの組織及び運営に関する条例

用途地域	商業地域	法定容積率	600 %	法定建蔽率	80 %		
用途地域以外の指定地域	防火地域	全棟数	0 棟	駐車台数	0 台		
設備整備状況	備蓄用倉庫	—	出入口	○	ハザードマップ指定		
	災害用備蓄の有無	—	廊下等	○	洪水時の浸水深	0.01~0.5m未満	
	冷暖房設備	—	階段	○	津波時の浸水深	—	
	通信設備	—	昇降機	○	地震・危険度	建物全壊率が10~20%の地域	
	調理設備	—	便所	○	地震・揺れやすさ	—	
	入浴設備	—	喫煙ルーム	○	地震・液状化危険度	—	
	代替電源設備	—	喫煙ルーム	○	土砂災害計画区域等	—	
		分煙対策	喫煙ルーム	○	開設年月日	2016/04/01	
		アスベストの使用	有	駐車場	○	供用廃止日	—
		環境配慮	—	化	—	—	

供給情報

区分	単位	2014年度	2015年度	2016年度	注記
年間開館日数	日				
1日当たり運営時間	時間				
在籍者数	人				
利用者数	人				★
定員数	人				
蔵書冊数	冊				
貸出冊数	冊				
病床数	床				
入院延人数	人				
外来患者延人数	人				
救急患者数	人				
管理戸数	戸				
入居戸数	戸				
収容台数	台				
利用台数	台				
契約利用台数	台				
証明書発行件数	件				
届出件数	件				
斎場利用件数	件				
貸室①					
貸室②					
貸室③					
貸室④					
貸室⑤					
貸室⑥					
貸室⑦					
貸室⑧					
貸室⑨					
貸室⑩					
貸室⑪					
貸室⑫					
貸室⑬					
貸室⑭					
貸室⑮					
貸室⑯					
貸室⑰					
貸室⑱					
貸室⑳					



《注記》
 ★グラフ対象指標区分
 ※貸室①～⑳の各年度表記は、次の通り。
 [利用コマ数], [利用可能コマ数]

備考

施設カルテ

基準日 2016/04/01

施設基本情報

施設番号 99047 施設名 消費生活センター

財務情報

●歳出

区 分		(千円)			
		2014年度	2015年度	2016年度	
歳出合計		0	0	0	
内 需用費	消耗品費	-	-	-	
	燃料費(ガソリン・重油)	-	-	-	
	光熱水費	電気	-	-	-
		ガス	-	-	-
	水道	-	-	-	
	修繕費	-	-	-	
外 訳	役員費	-	-	-	
	委託料	-	-	-	
	使用料及び賃借料	-	-	-	
	備品購入費	-	-	-	
	その他経費	-	-	-	

●運営人員数(人)

常勤	-	-	-
非常勤	-	-	-

※運営人員数の人件費は理論値です。

●歳入

区 分		(千円)		
		2014年度	2015年度	2016年度
歳入合計		0	0	0
内 指定管理	利用料金 (使用料)	-	-	-
	目的外使用料	-	-	-
	その他	-	-	-
外 訳 直営	使用料及び手数料	-	-	-
	目的外使用料	-	-	-

●施設分類内コストランキング(金額の高い順)

施設分類	其他事務所	総施設数	2
区 分	総額(千円)	円/㎡	
2014年度	0	-	0
2015年度	0	-	0
2016年度	0	-	0

(千円) 【歳出の推移】 (円/㎡)



凡 当該施設 総額(千円) 延床面積あたり(円/㎡)
例 分類平均 総額(千円) 延床面積あたり(円/㎡)

(千円) 【歳入の推移】 (円/㎡)



凡 当該施設 総額(千円) 延床面積あたり(円/㎡)
例 分類平均 総額(千円) 延床面積あたり(円/㎡)

特記事項

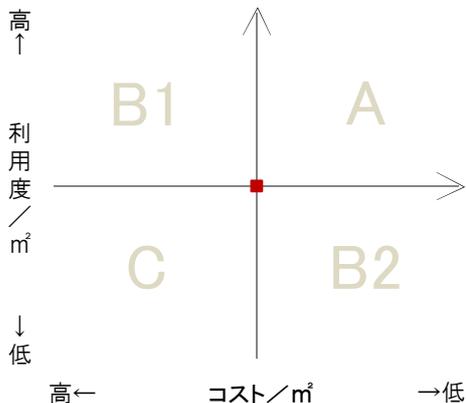
延床面積は、本庁舎に含んで計上。

施設メモ

費用対効果分析

【費用対効果分析(建物基本情報調査による定量的な分析)】

○費用対効果分析(㎡あたり利用度と㎡あたりコスト)



- ・軸の交差箇所は、用途を同じとする施設全体の平均値。
- ・平均値は、基準年度のコスト、利用度の平均を使用。

区分	対応	費用対効果のとらえ方
A	継続	コストと利用度のバランスが良い
B1	コスト改善	コスト面の改善が必要
B2	利用度改善	利用度の改善が必要
C	見直し	コストと利用度のバランスが悪い

凡例: ■ ... 当該施設 ◆ ... 比較対象(分類)の他施設

※利用度...供給情報の★印の項目値

